



ロボシリンダ  
RCP2 アクチュエータ  
ロボロータリー  
[ RTB・RTCタイプ ]

取扱説明書

第1版

**IAI**  
Quality and Innovation







## 安全上のご注意（アクチュエータ）

機種を選定および当該製品のご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

以下に示す注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するためのものです

JIS B 8433(産業用ロボットの安全通則)の安全規則と併せて必ず守ってください。

指示事項は危険度、障害度により「危険」、「警告」、「注意」、「お願い」に区分けしています。

|   |  |
|---|--|
|  危険  | 取扱を誤ると、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される内容です。  |
|  警告  | 取扱を誤ると、死亡または重傷に至る可能性が想定される内容です。          |
|  注意  | 取扱を誤ると、傷害または物的損害の可能性が想定される内容です。          |
|  お願い | 傷害の可能性はないが、当該製品を適切に使用するために守っていただきたい内容です。 |

当該製品は、一般産業機械用部品として、設計、製造されたものです。

機器の選定および取扱にあたっては、システム設計者または担当者等十分な知識と経験を持った人が必ず「カタログ」、「取扱説明書」を（特にその中の「安全上のご注意」を）読んだ後に取扱ってください。取扱いを誤ると危険です。

取扱説明書は本体、コントローラ、などの全ての機器の取扱説明書を読んでください。

当該製品とお客様のシステムとの適合性はお客様の方で検証と判断を行った上で、お客様の責任によるご使用をお願いします。

「カタログ」、「取扱説明書」等をお読みになった後は、当該製品をお使いになる方がいつでも読むことができるところに、必ず保管してください。

「カタログ」、「取扱説明書」等は、お使いになっている当該製品を譲渡されたり貸与される場合には、必ず新しく所有者となられる方が安全で正しい使い方を知るために、製品本体の目立つところに添付してください。

この「安全上のご注意」に掲載しています危険・警告・注意はすべての場合を網羅していません。特に個別の内容は、その機器の「カタログ」「取扱説明書」をよく読んで安全で正しい取扱をおこなってください。

### 危険

#### 全 般

下記の用途に使用しないでください。

1. 人命および身体の維持、管理等に関わる医療器具
2. 人の移動や搬送を目的とする機構、機械装置
3. 機械装置の重要保安部品

当該製品は高度な安全性を必要とする用途に向けて企画、設計されていません。人命を保証しません。また、保証の範囲は納入する当該製品だけです。

#### 設 置

発火物、引火物、爆発物等の危険物が存在する場所では使用しないでください。発火、引火、爆発の可能性あります。

製品を取り付ける際には、必ず確実な保持、固定（ワークを含む）を行なってください。製品の転倒、落下、異常作動等によって、ケガをする可能性があります。

本体、コントローラに水滴、油滴などがかかる場所での使用は避けてください。  
製品のケーブルの長さを延長または短縮するために、ケーブルの切断再接続は絶対に行わないでください。火災の可能性があります。

## 運 転

製品の作動中または作動できる状態のときは、機械の作動範囲に立ち入らないでください。アクチュエータが不意に動くなどして、ケガをする可能性があります。  
ベースメーカー等を使用している方は、製品から1メートル以内に近づかないでください。製品内の強力なマグネットの磁気により、ベースメーカーが誤作動を起こす可能性があります。  
製品に水をかけないでください。水をかけたり、洗浄したり、水中で使用すると、異常作動によるケガ、感電、火災などの原因になります。

## 保守、点検、修理

製品は絶対に改造しないでください。異常作動によるケガ、感電、火災等の原因になります。  
製品の基本構造や性能・機能に関わる不適切な分解組立は行わないでください。ケガ、感電、火災などの原因になります。

## 警 告

### 全 般

製品の仕様範囲外では使用しないでください。仕様範囲外で使用されますと、製品の故障、機能停止や破損の原因となります。また、著しい寿命の低下を招きます。特に、最大積載重量や最大速度は守ってください。

### 設 置

非常停止、停電などシステムの異常時に、機械が停止する場合、装置の破損・人身事故などが発生しないよう、安全回路あるいは装置の設計をしてください。  
アクチュエータ、コントローラは必ず、D種接地工事(旧第3種接地工事、接地抵抗100Ω以下)をしてください。漏電した場合、感電や誤作動の可能性があります。  
製品に電気を供給する前および作動させる前には、必ず機器の作動範囲の安全確認を行ってください。不用意に電気を供給すると、感電したり、可動部との接触によりケガをする可能性があります。  
製品の配線は「取扱説明書」で確認しながら誤配線がないように行ってください。ケーブル、コネクタ一の接続は抜け、ゆるみのないよう確実に行ってください。製品の異常作動、火災の原因になります。

### 運 転

製品の可動部を手で動かすとき(手動位置合わせなど)はサーボオフ(ティーチングボックス使用で)していることを確認してから行ってください。ケガの原因になります。  
ケーブルは屈曲性の優れたものを使用しておりますが、ロボットケーブルではありません。規定以下の半径の可動配線ダクト(ケーブルベアなど)に収納しないでください。  
ケーブルは傷をつけないでください。ケーブルに傷をつけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、巻き付けたり、重いものを載せたり、挟み込んだりすると、漏電や導通不良による火災や感電、異常作動等の原因になります。  
停電したときは電源を切ってください。停電復旧時に製品が突然動き出しケガ、製品の破損の原因になります。  
製品に異常な発熱、発煙、異臭が生じた場合は、ただちに電源を切ってください。そのまま使用すると製品の破損や火災の可能性があります。  
異音が発生したり振動が異常に高くなった場合は、ただちに運転を停止してください。そのまま使用すると製品の破損、損傷による異常作動、暴走等の原因になります。

製品の保護装置(アラーム)がはたらいた場合は、ただちに電源を切ってください。製品の異常作動によるケガ、製品の破損、損傷の可能性があります。電源を切った後、原因を調べ、その原因を取り除き、電源を再投入してください。

製品の上に乗ったり、足場にしたり、物を置かないでください。転倒事故、製品の転倒、落下によるケガ、製品の破損、損傷による誤作動、暴走等の原因となります。

## 保守、点検、修理

製品に関わる保守点検、整備または交換などの各種作業は、必ず電気の供給を完全に遮断してから行ってください。なお、この時下記の事項を守ってください。

1. 作業中、第三者が不用意に電源を入れないよう「作業中、電源投入禁止」などの表示を見やすい場所に掲げてください。
2. 複数の作業者が保守点検を行う場合は、電源の入り切り軸の移動は必ず声をかけて安全を確認して行ってください。

## 廃棄

製品は火中に投じないでください。製品が破裂したり、有毒ガスが発生する可能性があります。

## ⚠ 注意

## 設置

直射日光(紫外線)のあたる場所、塵埃、塩分、鉄粉のある場所、多湿状態の場所、有機溶剤、リン酸エステル系作動油等が含まれている雰囲気中で、使用しないでください。短期間で機能が喪失したり、急激な性能低下もしくは寿命の低下を招きます。

腐食ガス(硫酸や塩酸など)の雰囲気で使用しないでください。錆の発生による強度の劣化の可能性があります。

下記の場所で使用する際は、遮蔽対策を十分行ってください。措置しない場合は、誤作動を起こす可能性があります。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 大電流や高磁界が発生している場所  | 3. 静電気などによるノイズが発生する場所 |
| 2. 溶接作業などアーク放電の生じる場所 | 4. 放射能に被爆する可能性がある場所   |

本体およびコントローラは、ちり、ほこりの少ない場所に設置してください。ちり、ほこりの多い場所に設置した場合には、誤作動を起こす可能性があります。

大きな振動や衝撃が伝わる場所(4.9m / S<sup>2</sup>以上)に設置しないでください。大きな振動や衝撃が伝わり誤作動を起こす可能性があります。

運転中になにか危険なことがあったとき直ぐ非常停止が掛けられる位置に非常停止装置を設けてください。ケガの原因になります。

製品の取り付けには、保守作業のスペース確保をお願いします。スペースが確保されないと日常点検やメンテナンスなどができなくなり装置の停止や製品の破損につながります。

製品の運搬、取付時は、リフトや支持具で確実に支えたり、複数の人により行うなど、人身の安全を確保して十分に注意して行ってください。

設置のとき、製品の可動部、ケーブルを持たないでください。ケガの原因になります。

アクチュエータ、コントローラ間のケーブルは、必ず弊社の純正部品を使用してください。なお、アクチュエータ、コントローラ、ティーチングボックスなど各構成部品は弊社の純正部品の組合せで使用してください。

ブレーキ機構は、垂直軸電源オフ時のスライダ落下防止用です。安全ブレーキなどに使用しないでください。

据付・調整等の作業を行う場合は、不意に電源などが入らぬよう「作業中、電源投入禁止」などの表示をしてください。不意に電源等が入ると感電や突然のアクチュエータの作動によりケガをする可能性があります。

## 運 転

電源を投入するときは上位の機器から順に投入してください。製品が急に起動し、ケガ、製品破損の原因になります。

製品の開口部に指や物を入れしないでください。火災、感電、ケガの原因になります。

製品の1メートル以内にフロッピーディスクおよび磁気媒体等を近づけないでください。マグネットの磁気によりフロッピーディスク内のデータが破壊される可能性があります。

製品の上に乗ったり、足場をしたり、物をおくことによる駆動部分への傷、打痕、変形を与えないでください。製品の破損、損傷による作動停止や性能低下の原因になります。

## 保守、点検、修理

アクチュエータのグリースを塗布するときは保護メガネを使用してください。グリースが飛び目に入ると目の炎症をおこします。

## ❶ お願

### 全 般

「カタログ」、「取扱説明書」等に記載のない条件や環境での使用、および航空施設、燃焼装置、クリーンルーム、娯楽機械、安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途への使用をご検討の場合は、定格、性能に対し余裕を持った使い方やフェールセーフ等の安全対策に十分な配慮をしてください。尚、必ず弊社営業担当までご相談ください。

### 設 置

製品を垂直に取り付けて使用する場合は、必ず垂直仕様(ブレーキ付)を使用してください。

機械装置等の作動部分は、人体が直接触れることがないように防護カバー等で隔離してください。

停電時にワークが落下するような制御を構成しないでください。機械装置の停電時や非常停止時における、テーブルやワーク等の落下防止制御を構成してください。

テーブルの直進精度を上げ、ボールネジおよびリニアガイドの滑らかな運動を確保するために、下記の事項に注意してください。

1. 本体の取付面は平面度0.05mm以内に仕上げてください。
2. アクチュエータの剛性を得るために、設置取付面を十分とってください。

### 設置・運転・保守

製品を扱う場合は、必要に応じて保護手袋、保護メガネ、安全靴等を着用して安全を確保してください。

### 保守、点検、修理

保守のとき、ボールネジ用グリースは指定のグリースを使用してください。特に、フッ素系グリースと、リチウム系グリースが混ざると潤滑不良や抵抗増大等により機械に損傷を与える場合があります。

### 廃 棄

製品が使用不能、または不要になった場合は、産業廃棄物として適切な廃棄処置を行ってください。

## その他

「安全上のご注意」全般についてお守りいただけない場合は、弊社は一切の責任を負えません。

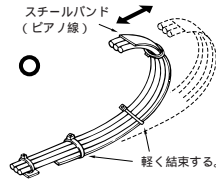
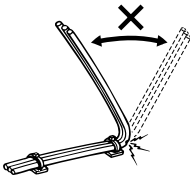
製品に関しての、お問い合わせは、最寄の弊社営業所にお問い合わせいたします。住所と電話番号は取説の巻末に表示してあります。

## ケーブル処理における禁止事項

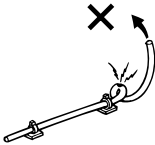
IAアクチュエータ、コントローラを使用してアプリケーション・システムを作り上げる場合、各ケーブルの引回しや接続が正しく行われないと、ケーブルの断線や接触不良等の思わぬトラブル発生につながり、ひいては暴走を引き起こす事にもなりかねません。ここでは、ケーブル処理方法に関する禁止事項について説明しますので、内容をよくお読みいただき確実なケーブル接続を行なって下さい。

### ケーブル処理における禁止10項目（必ず守りましょう！）

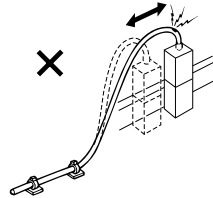
1. 1ヶ所に屈曲動作が集中しないようにしましょう。



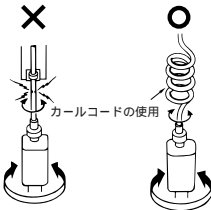
2. ケーブルには折り目、ヨジレ、ネジレをつけないようにしましょう。



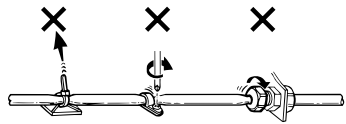
3. 強い力で引っ張らないようにしましょう。



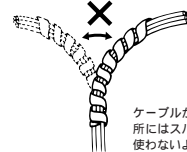
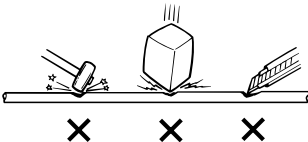
4. ケーブルの1ヶ所に回転が加わらないようにしましょう。



5. ケーブルの固定は適度にし、締めすぎないようにしましょう。

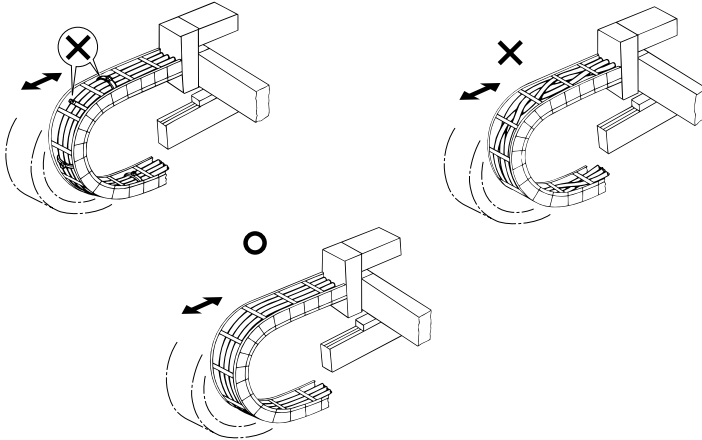


6. はさみ込み、打ちキズ、切りキズを付けないようにしましょう。

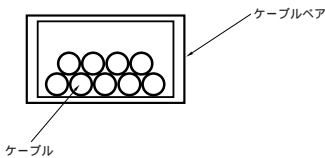


ケーブルがひんばんに曲る場所にはスパイラルチューブは使わないようにしましょう。

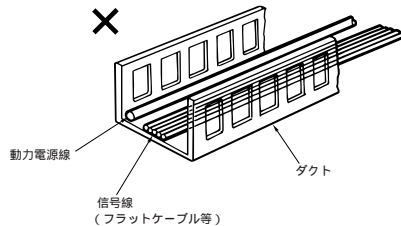
7. ケーブルベアやフレキシブルチューブ内でカラミやヨジレが無いように、また、ケーブルに自由度が有り結束しないようにしましょう。(曲げた時に突っ張らない事)



8. ケーブルベア内に占める収納ケーブル類の容積は60%以下にしましょう。

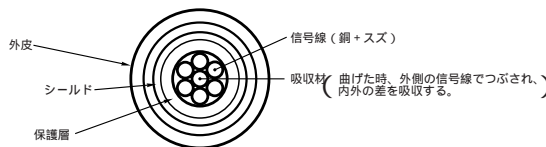


9. 信号線は強電回路と混在させないようにしましょう。



10. ケーブルに極度に屈曲がかかる恐れがある場合は、必ずロボットケーブルを使用しましょう。

【標準構造】  
メーカー及び形式で異なります。



### ロボットケーブルの必要性

アクチュエータ2 - 3軸組み合わせにおいて、可動部にケーブルを接続した場合、どうしてもケーブル根元に繰り返し曲げ荷重が働くため、使用しているうちにケーブル内部の芯線が断線する恐れがあります。この断線を極力防止するため、耐屈曲性を格段に向上させたロボットケーブルを是非ご使用されるよう強くおすすめします。

注意：ロボットケーブルを指定の場合でも、アクチュエータ本体から引出されているケーブル部分は、ロボットケーブルではありません。この部分に屈曲が加わらない様配線処理願います。

ロボットケーブルは中継ケーブルに適用されます。



## 目 次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 1. はじめに .....      | 1  |
| 2. 安全上の注意 ⚠ .....  | 1  |
| 3. 各部の名称 .....     | 2  |
| 4. 運搬、取扱い .....    | 4  |
| 5. 設置環境、保管環境 ..... | 5  |
| 6. 取付け方法 .....     | 6  |
| 7. 配線ケーブル処理 .....  | 11 |
| 8. 使用上の注意 .....    | 12 |
| 9. 保守点検 .....      | 16 |
| 10. 保証 .....       | 21 |
| 11. 外形寸法 .....     | 22 |



## 1. はじめに

お買い上げいただき、誠に有り難うございます。

本取扱説明書は、アクチュエータの正しい取扱い方や構造・保守等について解説したものです。

お使いになる前に、必ず、この取扱説明書をお読みのうえ、正しくお取り扱いくださいますよう、お願い申し上げます。

## 2. 安全上の注意

### 基本的な取扱い

- ・本取扱説明書及びコントローラ取扱説明書に記載していない取扱い及び操作方法等に関しては、出来ないものと考え、行なわないでください。
- ・アクチュエータ、コントローラ間の配線は、必ず、弊社純正部品をお使いください。
- ・機械が作動中の状態または電源が投入されている時は、機械の作動範囲に人が立ち入ることは危険を伴う恐れがありますので、絶対に避けてください。

### 保守点検作業

- ・保守点検作業は、必ず、コントローラの電源を遮断して行なってください。
- ・点検作業中に第三者が不用意に電源を入れないう、充分配慮してください。
- ・作業中は、その旨を明記したプレート等を見やすい場所に表示してください。
- ・複数の作業者が保守点検を行なう場合は、互いの安全を確認して作業を進めてください。特に電源の切りや、動作確認を伴う作業は必ず声を出し、安全を確認して行なってください。

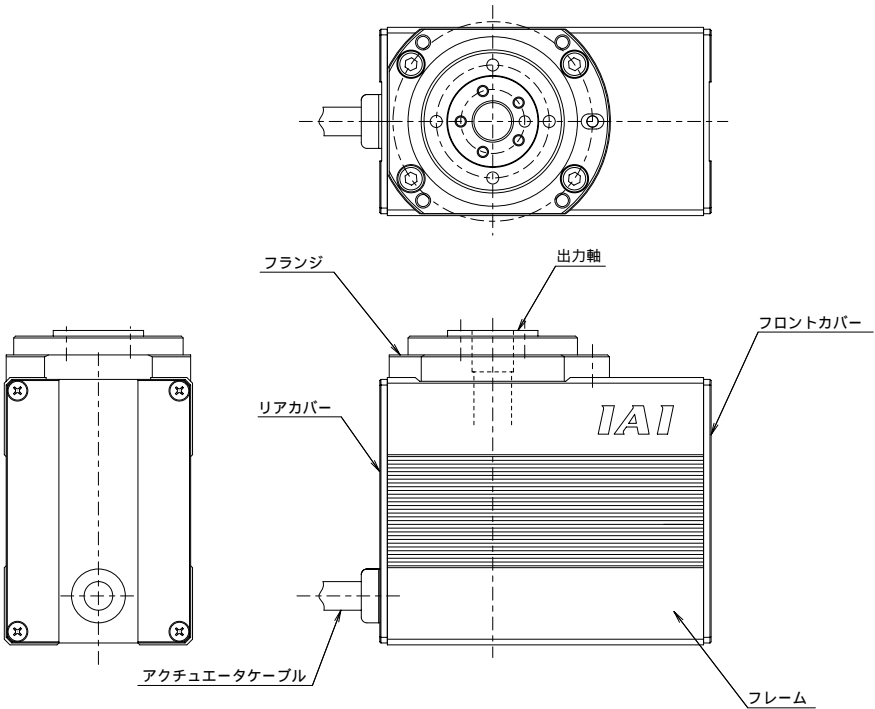
本説明に関する不明点は、弊社技術サービス課または営業技術課までお問い合わせください。

### 危険

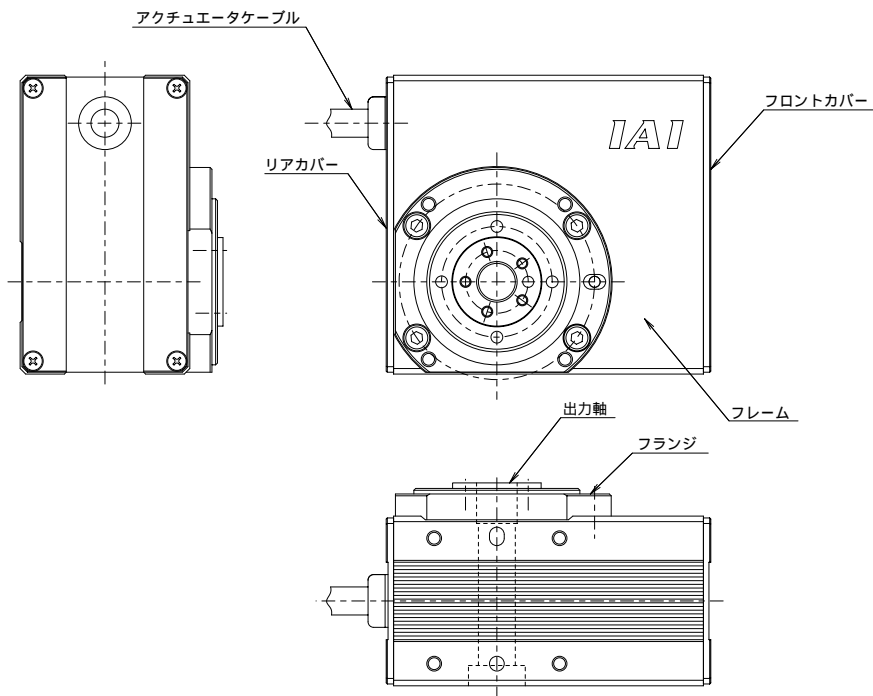
- 設置上の注意事項を守らなかった場合、作業や第三者の安全が守られません。重大な人身事故やアクチュエータが損傷する恐れがあります。

### 3. 各部の名称

各部の名称を以下に示します。  
RCP 2 -RTB( 縦型 )



RCP 2 -RTC( 扁平型 )



## 4. 運搬、取扱い

### 4.1 梱包状態での取扱い

極力ぶついたり衝撃落下せぬよう運搬取扱いには十分な配慮をお願いします。

- ・重い梱包は作業者単独では持ち運ばないでください。
- ・静置するときは水平状態としてください。
- ・梱包の上に乗らないでください。
- ・梱包が変形するような重い物、あるいは荷重の集中する品物を乗せないでください。

### 4.2 梱包から出した状態での取扱い

アクチュエータを梱包から出して取扱う時は、フレーム部分を持ってください。

- ・持ち運びの際、ぶついたりしないように注意してください。特に出力軸部、カバーにご注意願います。
- ・アクチュエータの各部に無理な力を加えないでください。特にケーブルにご注意願います。
- ・開梱の際に落としてけがをしたり、機械を傷めないように充分注意してください。
- ・万一輸送時による損傷や品目の不足があった場合は、ただちに当社営業技術課までご連絡ください。

## 5. 設置環境、保管環境

### 5.1 設置環境

設置にあたっては次の条件を満たす環境として下さい。

| 使用環境条件 |  |
|--------|--|
|        | 直射日光があたらないこと。                            |
|        | 熱処理炉等、大きな熱源からの輻射熱が機械本体に加わらないこと。          |
|        | 周囲温度は0～40。                               |
|        | 湿度85%以下、結露のないこと。                         |
|        | 腐食性ガス、可燃性ガスのないこと。                        |
|        | 通常の組立作業環境であり、塵埃が多くないこと。                  |
|        | オイルミスト、切削液がかからないこと。                      |
|        | 0.3Gを越える振動が伝わらないこと。                      |
|        | 強い電磁波、紫外線、放射線がないこと。                      |
|        | 本製品は耐薬品性に関して全く考慮されておりません。種々の薬品の雰囲気でないこと。 |

一般には作業者が保護具なしで作業できる環境です。

### 5.2 保管環境

保管環境は設置環境に準じますが、長期保管では特に結露の発生がないよう配慮下さい。

特にご指定のない限り、出荷時に水分吸収剤は同梱してありません。結露が予想される環境での保管の場合、梱包の外側から全体を、あるいは開梱して直接、結露防止処置を施して下さい。

保管温度は短期間なら60 まで耐えますが、1 カ月以上の保管の場合は50 までとして下さい。

## 6. 取付け方法

### 6.1 本体の取付け

本体を取り付ける面は、機械加工面か、それに準じる精度を持つ平面にしてください。

本体は、3面取付けが可能な構造となっております。

- ・機種及び取付け面によりねじ有効深さが異なります。7～8ページの図を参考に使用ねじ長さを決定してください。

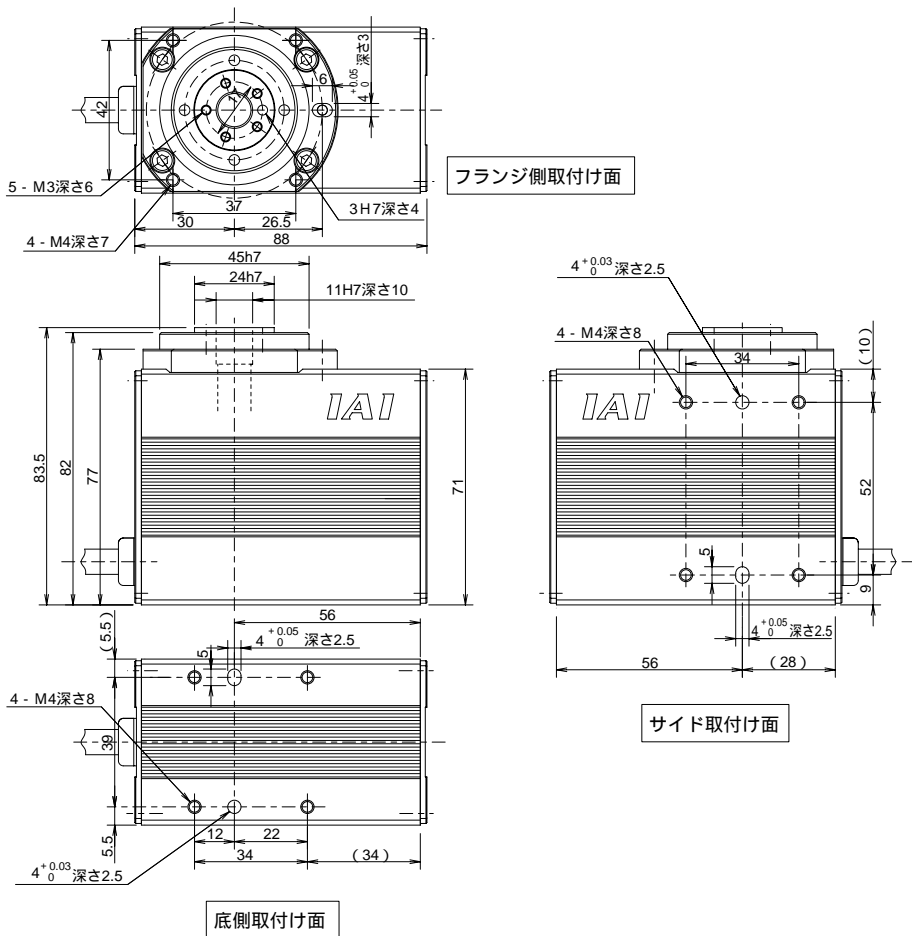
#### 注意

- ねじ有効長さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

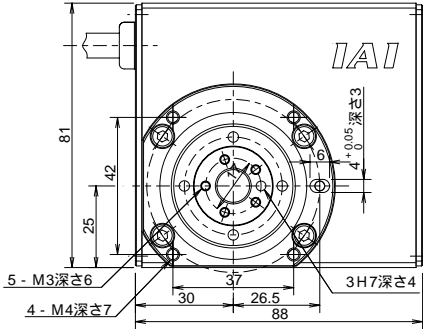
- ・各取付け面には、位置決めピン用の円穴、長穴を設けております。必要に応じて使用してください。



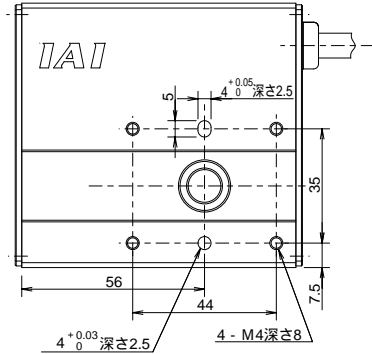
RCP 2-RTB



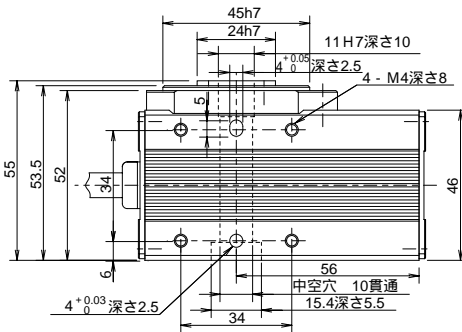
## RCP 2-RTC



フランジ側取付け面



底側取付け面



サイド側取付け面



**警告**



**注意**

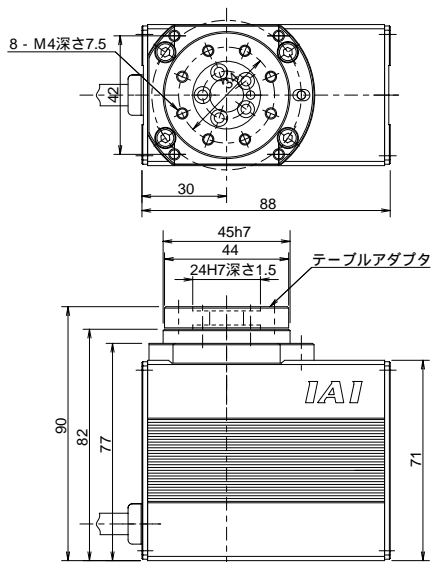
- 取付け部タップ穴は部分的に貫通穴となっております。ねじ有効長さ以上となる長いねじは絶対使用しないでください。内部機構、電気部品を損傷する可能性があります。

## 6.2 出力軸部取り付けアダプタ(オプション)

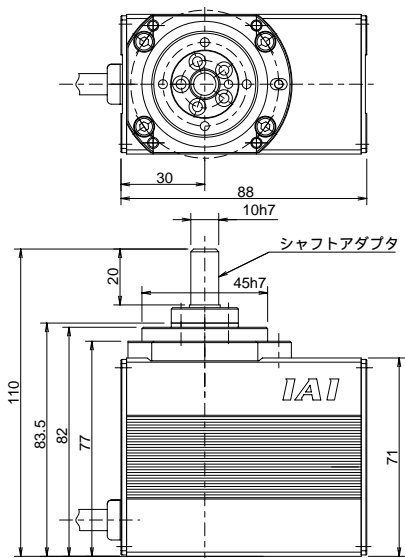
本体出力軸部に取り付けられるアダプタの外形寸法は以下のとおりです。

### RCP 2 -RTB

#### テーブルアダプタ

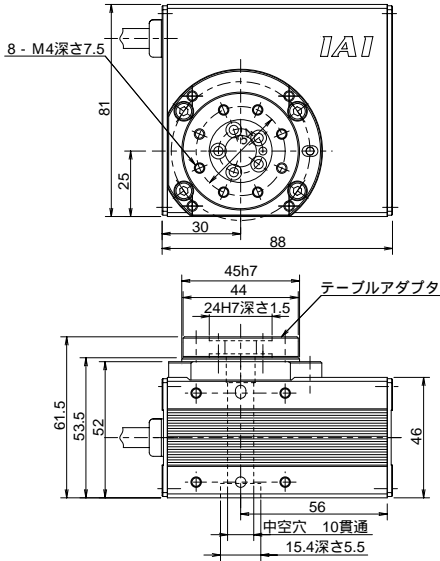


#### シャフトアダプタ

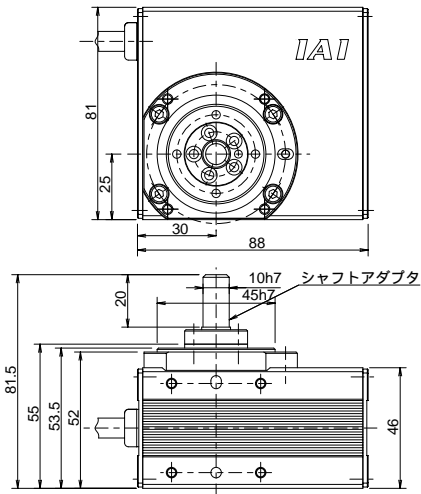


RCP 2-RTC

テーブルアダプタ



シャフトアダプタ



## 7. 配線ケーブル処理

### 7.1 コントローラとの接続

ケーブル端のコネクタをコントローラに接続してください。

配線ケーブル処理にかんしては以下の点に注意してください。

- ・ 屈曲疲労性に優れたケーブルを使用しておりますが、ロボットケーブルでは有りません。小半径の稼働配線ダクトに収容することは避けてください。
- ・ ケーブルが固定できない用途では自重で撓む範囲での使用が、自立ケーブルホース等、大半径の配線とし、ケーブルへの負荷が少なくなるよう配慮ください。
- ・ ケーブルを切断して延長、短縮、再接合をしないでください。

IOケーブル、コントローラ電源ケーブル、パソコン接続ケーブル等の接続方法はコントローラ取扱説明書、パソコンソフト取扱説明書を参照してください。

### 7.2 据え付け後の確認

据え付け後に次のことを確認してください。

- ・ 目視にてアクチュエータ本体、コントローラ、ケーブルに傷、へこみなどの異常がないか確認してください。
- ・ ケーブル接続に間違いはないか、コネクタが確実に接続されているか確認してください。

#### 警告

- ケーブルの接続、取外しの際には、必ずコントローラの電源を切って作業を行ってください。電源を入れたまま行くと、アクチュエータが誤動作をする恐れが有り重大な人身事故につながる恐れが有ります。
- コネクタの接続箇所を間違えると誤動作する恐れが有ります。
- コネクタの接続が不十分な場合、アクチュエータが誤動作し危険です。

## 8. 使用上の注意

### 8.1 動作範囲と原点復帰

#### 原点復帰方向

出力軸の反時計回り移動端が原点位置となります。

#### 動作範囲

原点位置から時計回り方向へ330度が動作範囲となります。

#### ポジション指定

原点位置から時計回り方向への移動角度がポジション値となります。

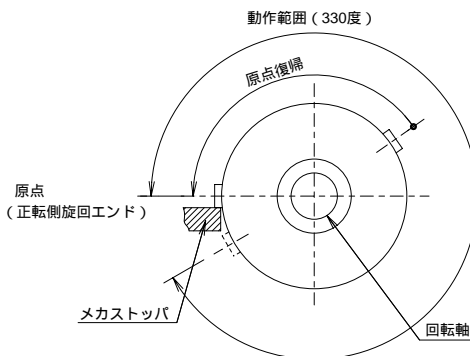
(ポジション値指定MAX = 330度)

#### 角速度、加速度指令

回転速度は角加速度(度/sec)が指令値となります。

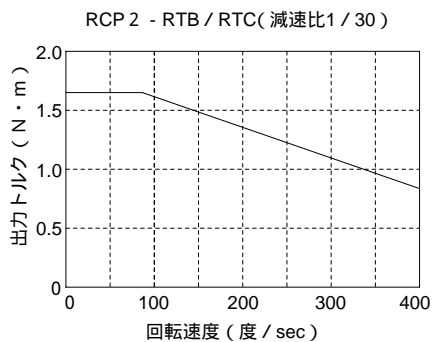
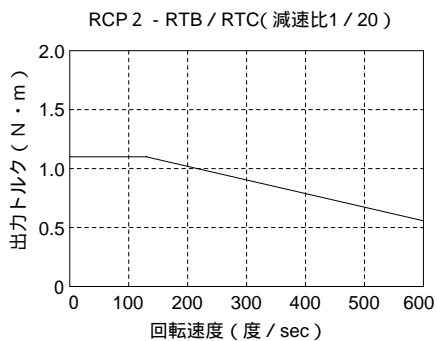
加減速度はプログラム上では「G」で指定します。

定格角加速度：0.3G=2940度/sec<sup>2</sup>



## 8.2 出力トルク

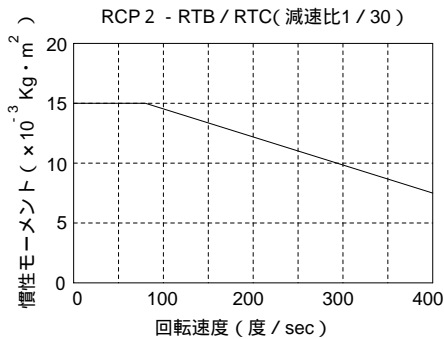
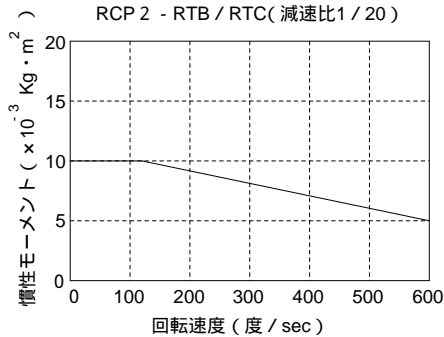
回転軸出力トルクは、回転速度により変動します。



## 8.3 許容負荷

### 許容慣性モーメント

回転させることができるワークの慣性モーメントは、回転速度により異なります。動作条件及び慣性モーメントを確認のうえ、ワークを設計してください。



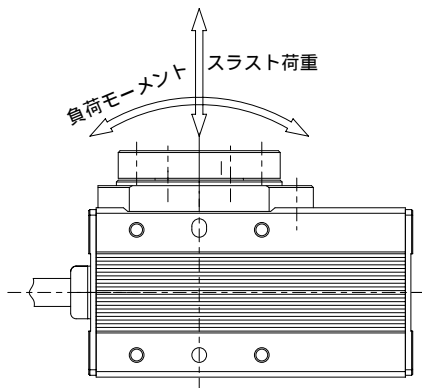
### ⚠ 注意

- 回転軸が水平方向で使用する場合は、ワーク重心が回転中心から離れた位置にあると、重力による負荷トルクが発生します。回転速度を下げるか、ワーク慣性モーメントを軽減する必要があります。



## 許容負荷モーメント・スラスト荷重

回転軸にかかる負荷モーメント、スラスト荷重がカタログの許容値以内かどうか確認してください。



### 注意



### お願い

- 許容値以上の負荷で使用すると、動作不良、又は寿命低下、破損の原因となります。許容値以下となるように負荷を設定する必要があります。
- 回転軸が水平方向で使用する場合は、出来るだけ負荷トルクがかからないようなワーク構造としてください。

## 9. 保守点検

購入された装置を安全に効率よく使用する為には日常の点検及び定期点検が必要です。以下に示す保守点検内容を確認の上作業を行ってください。

### 9.1 点検項目と点検時期

次に示された期間で保守点検を行ってください。

稼働状況は1日8時間の場合です。昼夜連続運転等、稼働率の高い場合は状況に応じ点検期間を短縮してください。

|        | 外部目視検査 | グリース補給 |
|--------|--------|--------|
| 始業点検   |        |        |
| 稼働後1ヶ月 |        |        |
| 稼働後半年  |        |        |
| 稼働後1年  |        |        |
| 以後半年毎  |        |        |
| 1年毎    |        |        |

下記、項目については工場設備での調整が必要な為、設置場所での分解作業及びケーブルの切断は行わない様をお願い致します。

モータの分解

ギア部の分解

ベアリングの分解

ケーブルの切断

この分解作業、切断行為を行った場合は、以降の動作及び障害については対応しかねますので、ご承知ください。

### 警告

- 点検、保守作業を十分理解しないで作業を行うと重大な人身事故につながる恐れがあります。
- 点検を行わなかった場合は駆動部分の早期寿命低下やアクチュエータの予期せぬ誤動作を引き起こす可能性があります。

## 9.2 外部目視検査

外部目視検査では以下の内容確認してください。

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 本 体   | 本体取付ボルト等の緩み     |
| ケーブル類 | 傷の有無、コネクタ部の接続確認 |
| 総 合   | 異音、振動           |

## 9.3 外部清掃

- ・ 外部の清掃は随時行ってください。
- ・ 清掃は柔らかい布等で汚れを拭いてください。
- ・ 隙間から粉塵が入りこまないよう、圧縮空気を強く吹き付けしないでください。
- ・ 石油系溶剤は樹脂、塗装面を傷めるので使用しないでください。
- ・ 汚れが甚だしい時は中性洗剤を柔らかい布等に含ませて軽く拭き取るようにしてください。

## 9.4 ギア部へのグリース補給

### (1) 使用グリース

弊社よりの出荷時は次のギア用グリースを使用しております。

|         |            |
|---------|------------|
| 協 同 油 脂 | AC-D No. 2 |
|---------|------------|

メンテナンス時には、リチウム系グリースNo. 2 を使用してください。相当製品として次のような製品があります。

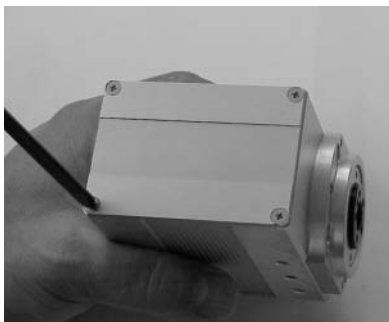
|         |             |
|---------|-------------|
| 昭和シェル石油 | アルパニアグリース 2 |
| モービル石油  | モービラックス 2   |

## (2) グリース補給方法

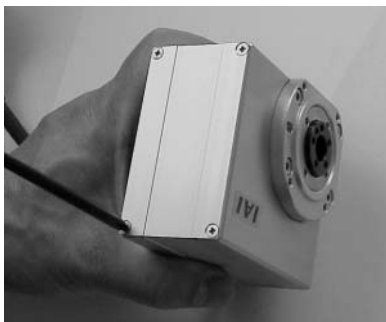
フロントカバーの固定ねじを外します。(皿小ねじM2.6×6)

フロントカバーは取り外します。

RCP 2-RTB



RCP 2-RTC



リアカバーの固定ねじを外します。(皿小ねじM2.6×6)

リアカバーは本体フレームから少し引き離すようにします。(この時に内部ケーブルを無理に引っ張らないようにしてください)

RCP 2-RTB



RCP 2-RTC

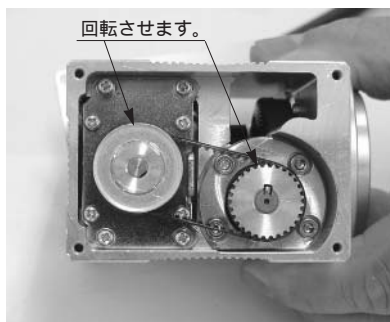


ギア部を回転させながら、リア側開口部より歯底部が埋まる程度にグリースを塗布します。

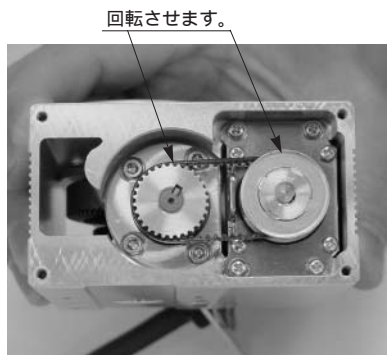
(入力軸を回すと、出力側ギアが回転します)

塗布後ギア部を数回往復させグリースをなじませます。

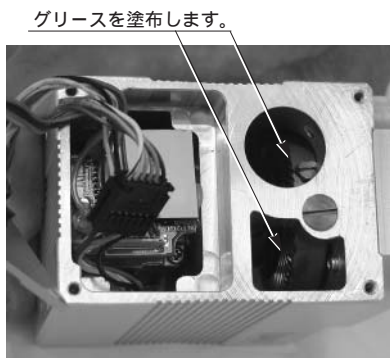
RCP 2 -RTB



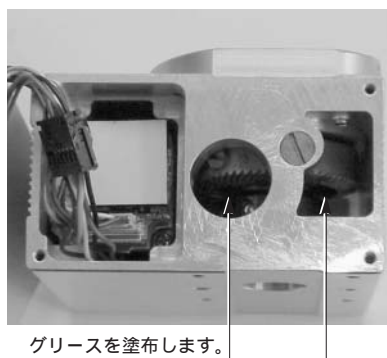
RCP 2 -RTC



RCP 2 -RTB



RCP 2 -RTC



フロントカバー、リアカバーを取付け固定します。

リアカバーを固定する際には、ケーブルを噛みこまないよう注意してください。



## ⚠ 警告

- フッ素系のグリースはけっして用いないでください。リチウム系グリースと混ざることによりグリースの機能が低下し機械に損傷を与えます。
- 必要以上にグリースを補給しないでください。電子部品まで流れ込み誤動作の原因となります。

## ⚠ 警告

- エンコーダは回転角や原点信号検出の為に、その位相は厳密に調整されております。故障の原因となりますのでエンコーダに手を触れることは絶対に行なわないでください。
- リアカバーを固定する際はケーブルの挟み込みに注意してください。配線が重なら無いよう上部空間に収めてください。パネルが浮いた状態で無理に固定しないでください。

## 10. 保証

### 10.1 保証期間

保証期間は以下のいずれか先に達した期間と致します。

- ・ 弊社出荷後18ヵ月
- ・ ご指定場所に納入後12ヵ月
- ・ 稼働2500時間

### 10.2 保証範囲

上記期間中に製造者の責任により故障を生じた場合は、無料で修理を行います。但し、次に該当する事項に関しては、保証範囲から除外されます。

- ・ 塗装の自然退色等、経時変化
- ・ 消耗部品の使用による損耗
- ・ 機能上に影響のない発声音等、感覚的現象
- ・ 使用者側の不適当な取扱い、並びに保守点検の不備
- ・ 弊社または弊社代理店以外の改造
- ・ 弊社以外のコントローラを用いた事が原因で起きた故障
- ・ 天災、事故、火災等による場合

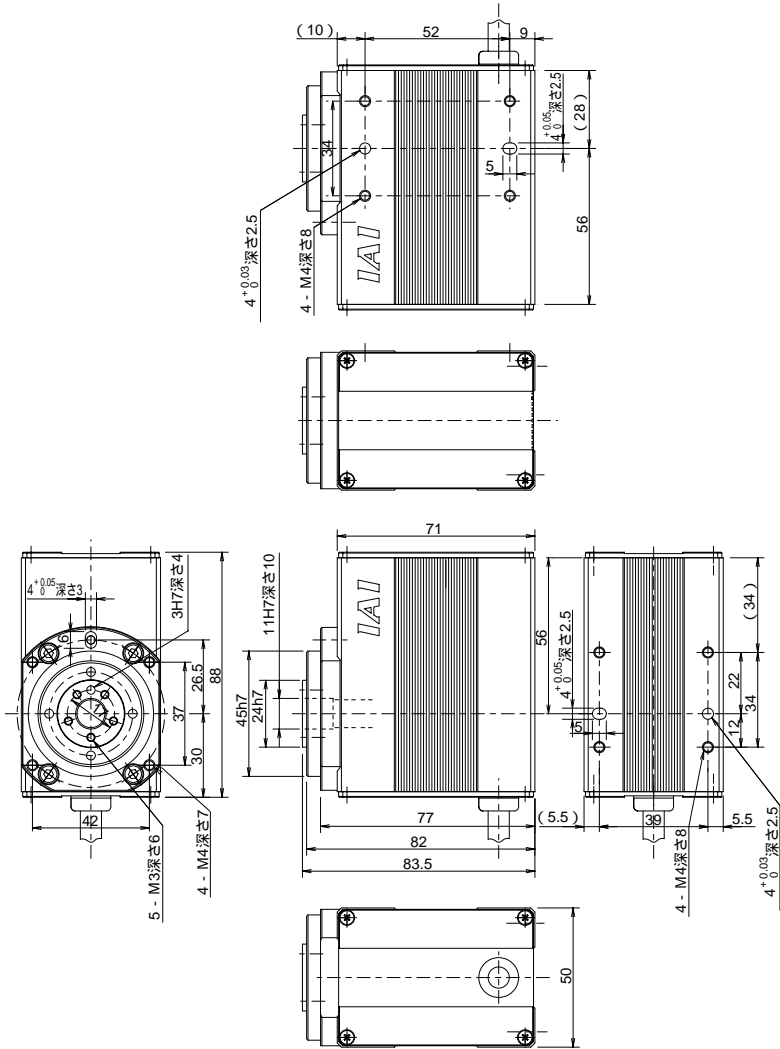
無料修理の保証は納入品の範囲とします。

修理は弊社持ち込みによるものと致します。

技術者派遣は保証期間内であっても別途費用を申し受けさせていただきます。

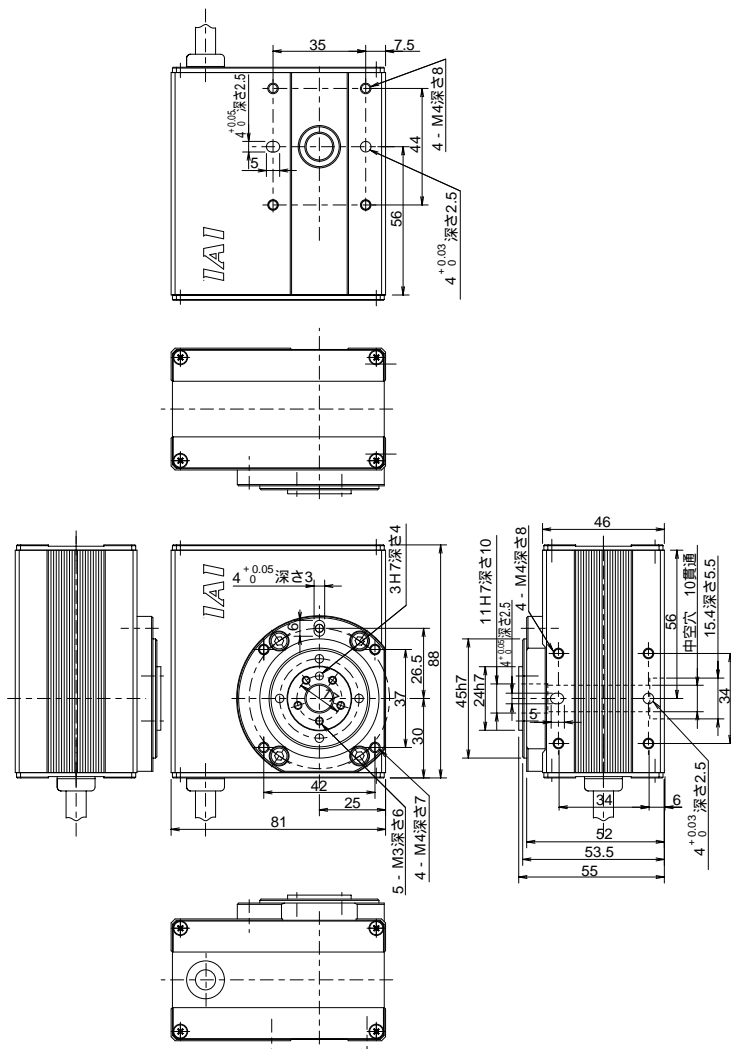
11. 外形寸法図

RCP 2-RTB





RCP 2 -RTC









## 株式会社 **アイエイアイ**

|        |   |                     |                  |
|--------|---|---------------------|------------------|
| 本社・工場  | 〒424-0102 静岡県静岡市清水広瀬645-1                 | TEL 0543-64-5105(代) | FAX 0543-64-5182 |
| 東京営業所  | 〒113-0034 東京都文京区湯島1-3-4 KTお茶の水聖橋ビル2F      | TEL 03-5803-7803(代) | FAX 03-5802-8151 |
| 大阪営業所  | 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 堂島TSSビル4F       | TEL 06-6457-1171(代) | FAX 06-6457-1185 |
| 名古屋営業所 | 〒460-0026 名古屋市中区伊勢山2-5-10 服部ビル5F          | TEL 052-323-8777(代) | FAX 052-323-8904 |
| 仙台営業所  | 〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二丁目14-15 アミ・グランデ二日町4F  | TEL 022-723-2031(代) | FAX 022-723-2032 |
| 新潟営業所  | 〒940-0082 新潟県長岡市千歳3-5-17 センザイビル2F         | TEL 0258-31-8320(代) | FAX 0258-31-8321 |
| 宇都宮営業所 | 〒321-0953 栃木県宇都宮市東密郷5-1-16 ルーセントビル3F A    | TEL 028-614-3651(代) | FAX 028-614-3653 |
| 熊谷営業所  | 〒360-0044 埼玉県熊谷市弥生町1-15-1 クレストフクダビル2F     | TEL 048-528-0270(代) | FAX 048-528-0271 |
| 茨城営業所  | 〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東48-2 ひたち野うしく池田ビル2F   | TEL 029-830-8312(代) | FAX 029-830-8313 |
| 厚木営業所  | 〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-10-6 シャンロック石井ビル6F    | TEL 046-226-7131(代) | FAX 046-226-7133 |
| 長野営業所  | 〒390-0877 長野県松本市沢村2-15-23 ラルカ沢村ビル2F       | TEL 0263-37-5160(代) | FAX 0263-37-5161 |
| 静岡営業所  | 〒424-0102 静岡県静岡市清水広瀬645-1                 | TEL 0543-64-5105(代) | FAX 0543-64-5182 |
| 豊田営業所  | 〒446-0054 愛知県安城市二本木町切替7-2 錦見ビル6F          | TEL 0566-71-1888(代) | FAX 0566-71-1877 |
| 金沢営業所  | 〒920-0024 石川県金沢市西念3-1-32 西清ビルA棟2F         | TEL 076-234-3116(代) | FAX 076-234-3107 |
| 京都営業所  | 〒612-8401 京都市伏見区深草下川原町22-11 市川ビル3F        | TEL 075-646-0757(代) | FAX 075-646-0758 |
| 岡山営業所  | 〒700-0945 岡山県岡山市新保1105-1                  | TEL 086-801-3544(代) | FAX 086-225-7781 |
| 広島営業所  | 〒730-0802 広島市中区本川町2-1-9 日宝本川町ビル5F         | TEL 082-532-1750(代) | FAX 082-532-1751 |
| 松山営業所  | 〒790-0905 愛媛県松山市榊味4-9-22 フォーレスト21 1F      | TEL 089-986-8562(代) | FAX 089-986-8563 |
| 福岡営業所  | 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-18-1 タカホビル 株式会社ビル2F | TEL 092-415-4466(代) | FAX 092-415-4467 |

ホームページアドレス <http://www.iai-robot.co.jp>

### **IAI America, Inc.**

Head Office 2690W 237th Street Torrance, CA90505  
TEL (310) 891-6015 FAX (310) 891-0815  
Chicago Office 1261 Hamilton Parkway Itasca, IL 60143  
TEL (630) 467-9900 FAX (630) 467-9912

### **IAI Industrieroboter GmbH**

Ober der Röth 4, D-65824 Schwalbach am Taunus, Germany  
TEL 06196-88950 FAX 06196-889524

製品改良のため、記載内容の一部を予告なしに変更することがあります。

Copyright © 2004. Jun. IAI Corporation. All rights reserved.